

## 地域包括ケアネットワーク No.102

### 北児島地区の地域包括ケアシステムの現状

北児島医師会地域包括ケア担当理事 宮森 政志

COVID-19（新型コロナ）という感染症が認知される前までは、北児島医師会下の北児島地域包括ケアネットでは、真備町の災害を目の当たりにして、北児島地区でも互助で何ができるかを考えました。“北児島互助ネット”と称する助け合いのネットワークの構築を行い、ほぼ完成状態でした。しかし、令和2年の2月ころからCOVID-19が日本でも猛威を振るい、対面形式の会すべての実施が困難になり、約2年半の休止を経て、令和4年11月に活動を再開することに至りました。しかし、ブランクの間には各医療施設で担当者の転勤などもあり、その当時の担当者が在籍しているのかも全く不明でした。まずは、担当者を把握して互助ネットの再構築も図る必要がありました。

北児島地域包括ケアネットは、住民参加型のシンポジウムの開催と医療従事者向けの拡大運営委員会の2つの軸で講演会を開催しています。再開最初は、令和4年11月に、まずは第13回北児島ケアネットシンポジウムを松山正春県医師会長と岡山大学高度救急救命センターの中尾教授にお越しいただいて、「ACP（人生会議）～コロナ禍におけるACP」と題して、会を開催いたしました。そして、その翌年の1月12日に拡大運営委員会にて、「災害医療の現場 地域で協力できること」を開催し、“北児島互助ネット”の再構築に向けての取り組みを開始しました。互助ネットの会員の把握、連絡方法、様々な介護施設との連携等を検討して、MCSを使用した連絡方法を構築しました。また、様々な会議にはMCSを活用するようになり、会議を極力減らすようにいたしました。MCSをコアメンバーで活用して、様々な連絡や議事についてはMCS上で行うことを基本としました。この辺りはCOVID-19流行以降において、業務改善に至ったと考えます。しかし、顔が見える会の重要性も十分に理解して、医療職の集まる拡大運営委員会は、講師の方々の講演後にグループワークを行い、お互いの意見や経験を語る機会を設けるようにしています。

令和6年度の取り組みは、拡大運営委員会では“医療と町内会の連携を図る”という目的で、“互助を育てる”というテーマでの開催を予定しています。町内会とはどのような組織であり、医療との連携を図るためには、どうすべきであるかを各立場の方々から講演をいただき、その後に、グループワークを通じて医療と町内会・地域との連携を考える会にしたいと思っております。

今後とも、北児島ケアネットとしましては、医療従事者間での隔たりがないように、また地域の住民の方々といつでも相談できる体制を構築しつつ、行政との連携、在宅医療との連携、様々な医療相談、地域の皆様と交流しつつ意見を出し合って運営を進めたいと考えています。